

事業名称	「ムラに残る民具と暮らし」
団体名・代表者	香寺歴史研究会・会長 高田 雅勝
協働の相手方	姫路市文化財課

目的	高度経済成長期に入る前の昭和 30 年代までの香寺町の人々の暮らしぶりを復元し、地域住民に、地域の歴史を再認識させることを目的とする。現存する民具をまず調査することに、今年度の事業の特徴がある。
内容	香寺町内の各地区において、調査員は、現在も民家などに残る「民具」を調査し写真撮影した後、民具の特徴として必要な寸法を測り、図に描いた。さらに所有者への聞き取り調査を通じて、民具の標準名や地方名、当時の使用方法や由来、保存理由などを「民具カード」にまとめ、事務局へ提出した。事務局は、民具カードを編集し報告書（研究誌）を作成した。
事業経過	研究会会員や地域住民の多くの協力を得ることができた。研究会会員以外にも調査員として協力いただいた方もおられた。調査カードは原則調査員自身が作成した。調査カードの整理やまとめの作業、報告書（研究誌）の編集は、研究会役員が行った。
事業の効果	民具の調査や報告書の作成を通じて、昭和 30 年代までの暮らしぶりを復元し、地域住民に香寺町の歴史を再認識させるという目的はある程度果たせたのではないかと。また民具の所有者（民具を取材させていただいた方々）に対しては、民具の歴史的価値を知っていただくよい機会になったように思われる。
今後の展望	報告書（研究誌）を公的機関や研究機関などに配布、郵送し、香寺町内だけでなく、広く多くの方々に目を通していただく機会をつくる必要があるように思われる。また、民家において必要でないと判断される民具の保存、保管の問題は解決されておらず、今後も姫路市や地元自治会に働きかけたいと思っている。

【実施団体の事業総括・感想等】

研究会会員や地元住民の協力が得られたおかげで、香寺町内 15 地区から合計 328 枚の民具調査カードが提出された。調査カードには、写真やイラストなど民具そのものの情報に加え、当時の使用方法や由来についての記載も多くあり、それらを活用して、報告書（研究誌）にうまくまとめ上げることができた。

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

実施団体を中心に協力調査員や地域住民が、香寺町域の民家の民具について高度経済成長以前の昭和 30 年代までという時期を限定し 1 件ずつ聞き取り調査記録、実測図、写真記録を作成し、埋没し失われつつある民具の調査活動を行い、成果を報告書にまとめ上げたことは、民具を通じた生業や生活の変化を気づかせ、民具は今日の課題を発見する素材となることで、埋もれていた民具を蘇らせ新たな生命を与える重要な取り組みであったといえることができる。
